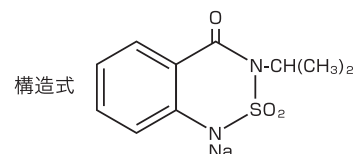


成分・性状・物理化学的性質・規格

種類：ペンタゾン液剤
 成分：ペンタゾン（ナトリウム塩）・・・44.0%
 化学名：3-イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジアジノン-(4)-2,2-ジオキシド
 ナトリウム塩
 性状：赤色澄明水溶性液体
 規格：1ℓ×12本



人畜・環境への安全性

人畜毒性(製剤):普通物*

LD ₅₀ (ラット、経口)	1,000mg/kg以上
LC ₅₀ (ラット、経皮)	4,000mg/kg以上

魚毒性(製剤):A類相当

コイ	LC ₅₀	(96時間)	110mg/ℓ以上
オオミジンコ	EC ₅₀	(48時間)	100mg/ℓ以上
緑藻	EC ₅₀	(72時間)	100mg/ℓ以上

*毒劇物に該当しないものをさしている通称

日本芝に対する影響

一過性の葉害が生じることがありますので高温時の散布や重複散布には注意してください



薬量処理日	薬量 (mℓ / m ²)	コウライシバに対する影響 (-:なし,+:あり,++:著しい)				葉害症状	葉害程度
		処理2日後	処理5日後	処理10日後	処理30日後		
5月21日	1mℓ	+	+	-	-	退色	微
	2mℓ	+	++	+	-	退色・葉先枯れ	小
6月21日		処理3日後	処理9日後	処理13日後	処理24日後		
	1mℓ	-	-	-	-	なし	無
	2mℓ	+	+	-	-	退色	微
7月16日		処理3日後	処理8日後	処理15日後	処理27日後		
	1mℓ	+	+	-	-	葉先枯れ	小
	2mℓ	++	++	+	-	葉枯れ	中

芝種：コウライシバ(生育期、フェアウェイに準ずる)
 散布水量：200mℓ / m²

< 圃場試験、2013年 >

適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用回数	使用方法	ペンタゾンを含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
日本芝	一年生雑草 (イネ科を除く) ヒメクグ	春夏期 雑草生育期 (芝生育期)	0.5~1 mℓ / m ²	100~200 mℓ / m ²	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内

使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調整し使いきる。
- 本剤の所定量を所要量の水にうすめ、よくかき混ぜてから散布すること。散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- 高温条件下では葉害を生ずることがあるので注意すること。
- ゴルフ場の使用においてはグリーンでは使用しないこと。
- 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので、晴天時を見はからって散布するのが望ましい。
- 散布薬液の飛散あるいは本剤の流出によって有用植物に葉害が生ずることのないよう十分注意して散布すること。
- 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器、空袋等は圃場に放置せず、環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 誤飲などのないよう注意すること。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

2014.2/3K(DD)_8005-01

販売取扱店

BASFジャパン株式会社

〒106-6121 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー21階
 ☎0120-014-660 <http://www.agriculture.japan.basf.com>

BASF
 The Chemical Company

バサグランターフ®

芝生用/除草剤 ペンタゾン液剤

- 生育期の一年生広葉雑草およびヒメクグに対して
茎葉処理で優れた効果
- 近年問題になっているスルホニルウレア(SU)系
除草剤抵抗性のヒメクグにも有効



For professional greenkeepers.

バサグランターフ®

待望のバサグラン芝生用が登場。 SU系除草剤抵抗性ヒメクグに効果を発揮。



効果的にお使いいただくためのポイント



薬量・水量は必ず
所定の範囲内で



雑草にまんべんなく薬液が
付着するよう均一散布を
心がけてください



一過性の薬害が生じることが
ありますので高温時の散布や
重複散布に注意してください



効果安定のため、展着剤を
加用してください

選ばれる特長 | 1 | 生育期の一年生広葉雑草およびヒメクグに対して優れた効果

▶ バサグランターフの効果

ヒメクグ	バサグランターフ (1ml / m ²)	SU系A剤 (0.04g / m ²)	B剤 (0.4ml / m ²)	無処理
散布前				
散布14日後				

ノチドメ	バサグランターフ (1ml / m ²)	SU系A剤 (0.04g / m ²)	B剤 (0.4ml / m ²)	無処理
散布前				
散布14日後				

▶ バサグランターフの薬量別効果

・効果安定のため薬量は1ml / m²を推奨します

科名	草種	0.5ml / m ²	0.75ml / m ²	1ml / m ²	科名	草種	0.5ml / m ²	0.75ml / m ²	1ml / m ²
キク科	アレチノギク	◎	◎	◎	マメ科	ヤハズソウ	△	△	△
	ヒメムカシヨモギ	◎	◎	◎	ゴマノハグサ科	トキワハゼ	◎	◎	◎
	オオアレチノギク	◎	◎	◎	タデ科	イヌタデ	◎	◎	◎
	ウラジロチコグサ	○～△	◎	◎	ナデシコ科	ツメクサ	◎	◎	◎
	ヒメジョオン	◎	◎	◎	クワ科	クワクサ	◎	◎	◎
	トキンソウ	○～△	○～△	○	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	◎～○	◎～○	◎～○
	セイタカアワダチソウ	◎	◎	◎	セリ科	チドメグサ	◎	◎	◎
トウダイグサ科	コニシキソウ	○	◎	◎		ノチドメ	◎	◎	◎
カヤツリグサ科	ヒメクグ	○	◎～○	◎	イネ科	イネ科雑草	×	×	×

◎:極大 ○:大 △:中 ×:小～効果なし

選ばれる特長 | 2 | スルホニルウレア系除草剤抵抗性雑草に対する効果

▶ ゴルフ場芝地におけるスルホニルウレア系除草剤抵抗性ヒメクグの防除体系

	ヒメクグ被度 (%)		ヒメクグ残草量 (%) 9月6日	薬害			薬害症状
	7月27日	9月6日		8月7日	9月6日	10月6日	
土壌処理剤 (3月16日)	7.2	21.6	100	-	-	-	-
土壌処理剤 (3月16日) → ベンタゾン (7月28日)	9.7	0	0	+	-	-	葉先枯れ
土壌処理剤 (3月16日) → 茎葉処理剤 (7月28日)	8.7	5	38	++	++	-	変色 (黄)、生育抑制

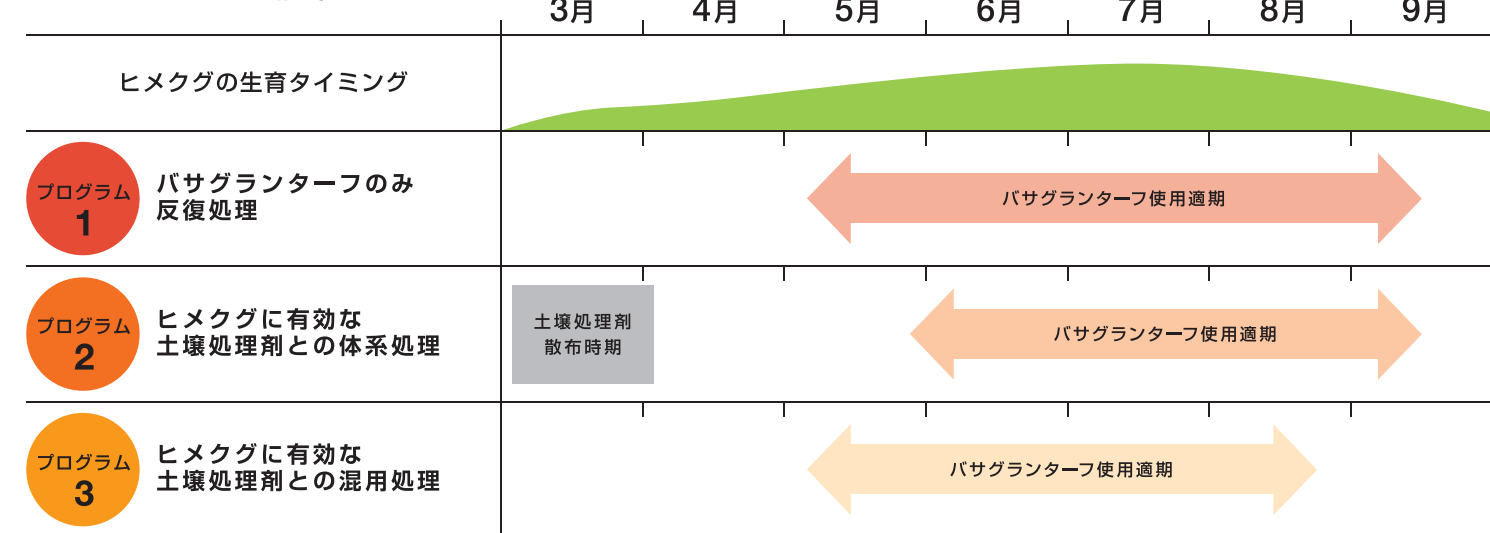
[日本芝草学会2012年春季大会誌より抜粋、日本植物調節剤研究協会 土田邦夫氏らによる報告]

-: 症状なし +: 症状あり ++: 著しい症状あり

7月のヒメクグ生育期のベンタゾン処理でヒメクグのほとんどが枯死し、再生、後発生はなかった。ベンタゾン処理で葉先枯れが生じたが軽微だった。以上より、有効な土壌処理剤とベンタゾンの体系処理は、ヒメクグ防除に極めて有効なことが確認された。

上手な使い方 | ヒメクグ防除プログラム例

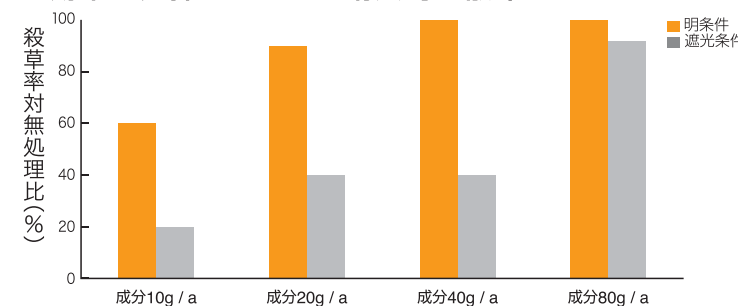
▶ バサグランターフ散布プログラム



※上記のうち適切なタイミングを3回選択し散布する ※高温条件下の散布には注意してください

使用のポイント | 光条件とバサグランターフの効果

▶ 効果が発揮されやすい晴天時の散布がポイントです



ウリカワ7～8葉剤を湛水土壤処理して殺草効果を調査。遮光区の照度は明区の1/4～1/6。
[日本雑草防除研究会講演会講演要旨 13,130-132より抜粋 謝 昭彦氏らによる報告 (1974年)]

明区が遮光区に比べて殺草効果は高く、効果の発現が早かった。

